

プログラム・ノート

解説=柴田克彦

オーケストラによる千夜一夜物語

今回の「平日の午後のコンサート」のテーマは〈千夜一夜物語〉。桂冠指揮者のダン・エッティンガーが華麗な名曲を聴かせます。

メインはもちろん公演のテーマに即した『シェエラザード』。「千一夜物語」や「アラビアンナイト」とも呼ばれる物語に基づくエキゾティックな音楽です。ここでは、“管弦楽法の達人”リムスキー=コルサコフならではの色彩的なサウンドと、ヴァイオリンをはじめとする様々な楽器のソロが注目点となります。また、前半2曲もオペラ=物語にまつわる作品。『マイスター・ジンガー』前奏曲では、物語内の事象を表す動機を用いた壮麗な音楽が展開され、『カルメン・ファンタジー』では、気鋭のヴァイオリニスト・服部百音が、物語を彩る様々な名旋律を鮮やかに奏でます。

今回は、オペラを得意とするエッティンガーの巧みな語り口と同時に、ソロの妙技やめくるめくサウンドなど、“オーケストラの千夜一夜物語”を愉しめるコンサートです。



桂冠指揮者ダン・エッティンガーが贈るアラビアン・ナイトの調べをお楽しみください

©上野隆文

劇中の動機で構成された祝典的な前奏曲



幕開けは、ドイツ・ロマン派オペラの巨匠リヒャルト・ワーグナー(1813-1883)の楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』より第1幕への前奏曲。オペラ自体は、1862～67年に作曲され、1868年に初演された円熟期の大作です(ただし前奏曲は1862年に先行初演)。「マイスタージンガー」とは、中世ドイツにおける「歌手=ジンガー」の能力を兼ね備えた「職人の親方=マイスター」のこと。当時の親方への昇格には、専門技術以外に歌の自作および歌唱能力が求められたことが物語の基盤になっています。本編は「実在した靴屋の親方ザックスが、金細工師の親方の娘エヴァに恋する騎士ヴァルターを助け、歌合戦に勝たせてエヴァを獲得させる」といった物語。ワーグナーの主要作の中で唯一、喜劇的な要素を持ったオペラであると同時に、ドイツの精神を賛美する内容となっています。

第1幕への前奏曲は、劇中の動機を多数用いて構成された、壮麗で祝典的な音楽です。全合奏による「マイスタージンガーの動機」で堂々と始まり、柔らかな「愛の情景の動機」、明るい「行進の動機」など複数の動機が現れた後、「愛



『ニュルンベルクのマイスタージンガー』が初演されたバイエルン国立歌劇場

stock.adobe.com

の動機」と「情熱の動機」に基づくなだらかな部分に移ります。やがて木管楽器の歯切れ良い動きで「マイスタージンガーの動機」が再登場。数々の動機が交錯しながら高揚し、「行進の動機」を中心とした華やかな終盤を迎えます。なお、半ば過ぎで3つの動機が同時進行する場面は、特に聴きどころとなります。

名旋律の宝庫『カルメン』を題材にした 超絶技巧満載の傑作



かわつてはヴァイオリン・ソロをフィーチャーした作品、**フランツ・ワックスマン** (1906-1967) の『カルメン・ファンタジー』です。ワックスマンは、ドイツに生まれ、1934年アメリカに移住後、ハリウッドで活躍した作曲家。映画「サンセット大通り」(1950)、「陽のあたる場所」(1951)でアカデミー賞作曲賞も受賞しています。

本作は、フランスの天才作曲家ジョルジュ・ビゼー(1838-1875)が残したオペラ史上屈指の人気作『カルメン』(1875年初演)に題材を得た音楽。ちなみにスペインのセビリアを舞台にした物語は、「純真な兵士ドン・ホセは、許嫁のミカエラを袖にして、奔放なジプシー女カルメンと恋に落ちる。だがカルメンは闘牛士エスカミーリョに心変わり。最後にホセは彼女を殺す」といった悲劇です。このオペラはスペイン情趣溢れる名旋律の宝庫ゆえに、劇中の楽曲を用いた作品も数多く作られており、ヴァイオリン曲ではサラサーテの同名作が有名です。本作も同様のスタイルで書かれたメドレー調のナンバー。元々は1946年の映画「ユーモレスク」のために書かれ、20世紀屈指の名手ハイフェッツが世に広めました。超絶技巧を満載した難曲ですが、20世紀後半から演奏される機会が増えています。曲は、「第1幕前奏曲」に始まり、「ハバネラ」「アラゴネーズ」「セギディーリャ」等々、おなじみの旋律が断片も含めて多数登場。「ジプシーの歌」の速弾きで華やかに締めくくられます。

濃厚なオリエンタリズムが漂う 色彩感豊かな管弦楽



後半は、ニコライ・リムスキー=コルサコフ (1844-1908)

の交響組曲『シェエラザード』。リムスキー=コルサコフは、ロシア国民楽派「5人組」の一員で、元々は海軍の軍人でした。作品の特徴は、色彩豊かなオーケストレーション。その代表例が、1887年作の『スペイン奇想曲』、そして翌1888年に作曲、初演された本作です。

シェエラザードとは「千夜一夜物語」の語り部となる女性の名。「妃の不貞に怒ったサルタンの王シャーリアールは、夜を共にした女性を翌朝殺すという習慣を続けていた。しかし聡明なシェエラザードは王に毎晩面白い話を聞かせ、遂にはそれが千一夜にも及んで、王の残忍な心は消えてしまった」というのが全体の根幹で、個々の物語はペルシャ(トルコ)の民話に基づいています。

本作では、冒頭の力強い主題がシャーリアール王、独奏ヴァイオリン(通常コンサートマスターが弾きます)が出す優美な主題がシェエラザードを表わしており、両主題が形を変えながら全曲に登場します。そして様々な楽器のソロを効果的に用いた、オリエンタリズム濃厚な音楽が展開されます。また、見事な海の描写には、作曲者の海軍士官時代の経験が生かされています。



アール・デコを代表する画家リュイ・イカールによって描かれた「シェエラザード」(1927)

© バブリックドメインQ

曲は4つの物語で構成されています。ただし具体的な物語というよりも、そのイメージ音楽に近い内容となっています。なお、作曲者は最終的に各タイトルをスコアから外していますが、演奏時には付されるのが通例です。

第1楽章「海とシンドバッドの船」：ラルゴ・エ・マエストローソアレグロ・ノン・トロppo。王の主題とシェエラザードの主題が提示された後、船の動きを表わす和音的な主題が登場。フルートがシンドバッドの旋律を奏で、危険な航海へと進みます。中間には風のような優しい部分も出現。最後は2人の主題が戻り、静かに結ばれます。

第2楽章「カランダール王子の物語」：レント—アンダンティーノ。カランダール（「巡礼僧」の意味）王子の諸国遍歴の物語。まずはシェエラザードの主題に続いて、どこかユーモラスな王子の性格が描かれます。最初にファゴットで出されるのが王子の主題。中間部からテンポを上げて、金管楽器のファンファーレ風の音型に基づく動的な音楽が展開されます。

第3楽章「若き王子と王女」：アンダンティーノ・クワジ・アレグレット。冒頭のノスタルジックな主題をもとに、王子と王女の愛の情景が描かれます。途中から小太鼓のリズムの上でクラリネットが吹く快活な主題が加わり、次第に熱を帯びていきます。

第4楽章「バグダッドの祭り、海、青銅の騎士のある岩での難破、終曲」：アレグロ・モルト。若干雰囲気が変わった王の主題とシェエラザードの主題で始まり、ヴィーヴォ（活発に）と指示された主部に入ると、フルートで出される祭りの主題をもとに激しさを増していきます。第1楽章の海の音楽が再現されて嵐となり、船は難破。シェエラザードの主題と柔和になった王の主題が溶け合いながら、静かに終結します。

しばた・かつひこ（音楽ライター）／音楽マネージメント勤務を経て、フリーランスの音楽ライター、評論家、編集者となる。雑誌、公演プログラム、Web、宣伝媒体、CDブックレット等への寄稿、プログラム等の編集業務のほか、一般向けの講演や講座も行うなど、幅広く活動中。著書に「山本直純と小澤征爾」（朝日新書）、「吹奏楽編曲されているクラシック名曲集」（音楽之友社）。